

令和2年度 第1回かのや型スマート農業研究会を開催しました

令和2年10月13日、委員16名の出席を得て、令和2年度 第1回かのや型スマート農業研究会を開催しました。

研究会ではこれまでの取組みの報告と、今後の計画について意見交換を行いました。

かのや型スマート農業研究会員からの意見（主なもの）

- 環境制御装置の実証はデータの蓄積手法、機器の追加、施設連動、評価手法等を検討し、最終的には製造メーカーや地元のIT企業と協力してマニュアル化し、地域の取組とする必要がある。
- 茶の散水制御装置は良いが、制御面積が狭かったり、既存の基盤との兼ね合い(ウォーターハマー)、ログ(作動記録)が飛ばせない等の課題を解消する必要がある。
- 情報は継続して仕入れてないと行けないが、費用対効果が最も大事である。農地集約等で関係機関の連携も重要である。
- 農薬取締法の関係でドローンの適用農薬は現在は水稻とさつまいもがメインだが拡充が期待される。一方ドリフトの問題もあるので仕組みや周知をしっかりと行う必要がある。

